

トップアスリートによる特別授業を取り入れた オリンピック・パラリンピック教育が児童に与える効果の検討



オリ・パラ教育の基本的な考え方

小学校学習指導要領解説 体育編（文部科学省，2018）

各運動領域の内容との関連を図り，ルールやマナーを遵守することやフェアプレーを大切にすることなど，児童の発達段階に応じて，運動を通してスポーツの意義や価値等に触れることができるようにすること。

育成すべき人間像とオリ・パラ教育の方法（東京都教育委員会，2017a）

- 自己を肯定し自らの目標を持って，自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間
- スポーツに親しみ，知・徳・体の調和のとれた人間
- 日本人としての自覚と誇りを持ち，自ら学び行動てぎる国際感覚を備えた人間
- 多様性を尊重し，共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献てぎる人間

4つのテーマ

オリンピック
の精神

スポーツ

文化

環境



4つのアクション

学ぶ

観る

する

支える

平成28年度オリ・パラ教育重点校実施状況（東京都教育委員会，2017b）

	実施校	体育科指導	オリンピック 講演	オリンピック 実技指導・体験	パラリンピアン 講演	パラリンピアン 実技指導・体験
小学校	23	12	2	2	12	12
中学校	16	2	5	3	5	4
高等学校	5	2	1	0	7	5
特別支援 学校	4	2	2	2	2	2

◎オリンピックによる講演・実技指導の機会が少ない。

◎事例の紹介に留まり，効果の検証はなされていない。

研究の目的

単元内において、オリンピックメダリスト（以下、GT）による特別授業の位置付けを変えたオリ・パラ教育が児童の技能や学習意欲、自尊感情や友達とのかかわりに対して与える効果を検証し、より効果的なオリ・パラ教育の実施に向けた示唆を得ること。

1. GTによる特別授業の位置付けを変えた検証授業の実施

(都内公立小学校5年生3学級84名)

GT：オリンピック
男子体操団体メダリスト

特別授業の後に単元学習を実施：前群

単元中盤に特別授業を実施：中群

単元終了後に特別授業を実施：後群

2. 各調査の実施(SPSS Statistics ver.25で統計処理：有意水準5%)

1) 診断的・総括的授業評価：児童の意識の変容を把握・評価し，学習前後で比較（高橋，2009）

2) 運動能力調査：開脚前転の技能を得点化し，学習前後で比較

3) 声かけ人数・内容調査：毎授業後に声かけの人数を集計し，群同士で比較

4) 自尊感情測定尺度：学習前後の得点を次元ごとに比較

（伊藤・岩本，2010）

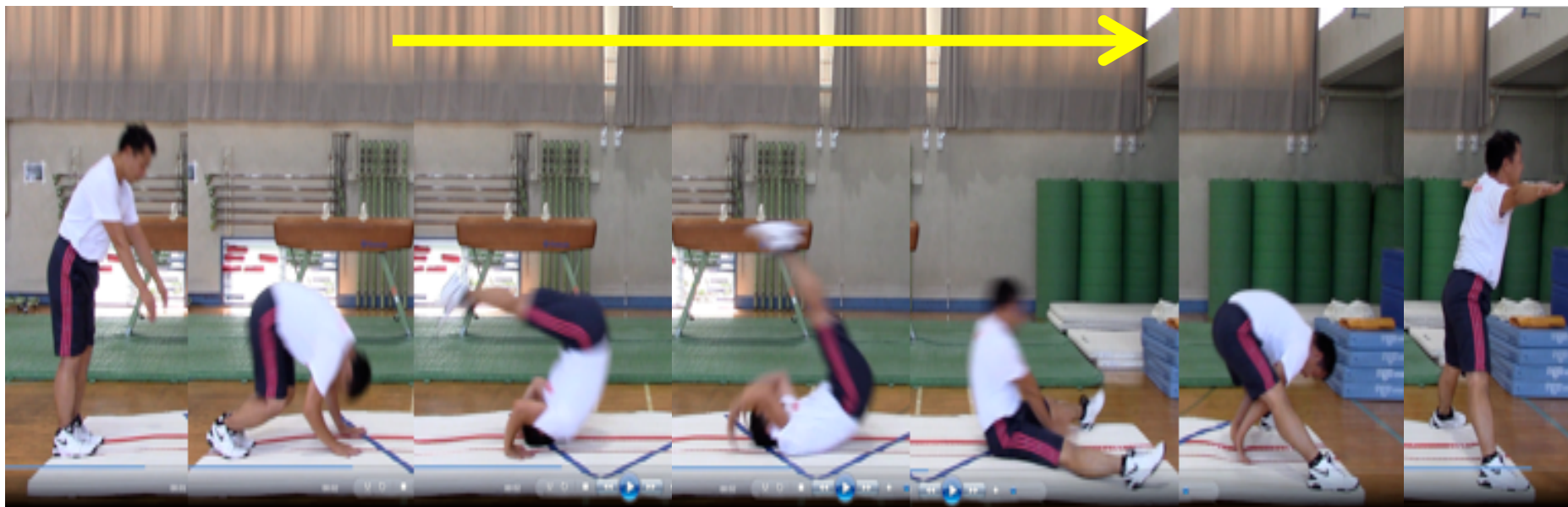
方法

検証授業の指導計画

内容	前転・大きな前転	後転	側方倒立回転	開脚前転	開脚後転	とび前転	ロンダート	特別授業
前群	2	3	4	5	6	7	8	1
中群	1	2	3	4	6	7	8	5
後群	1	2	3	4	5	6	7	8
10分	慣れタイム 基本的な体の動かし方や感覚を身に付ける運動に取り組む ゆりかご→首倒立 補助倒立 腕立て横跳び越し ゆりかご壁タッチ							
18分	ポイントタイム ①教師やGTの試技を見て，ポイントを知り，動きの流れを確かめる ②技を3回試し，動きの感じや友達のアドバイスをもとに課題を把握する ※グループの他の児童は動きをみて，できばえについて助言する							
12分	チャレンジタイム ①学習方法（運動や場）を選び，課題解決に向けて運動に取り組む ②続けて2回運動し，動きの感じや友達のアドバイスをもとに動きを確かめる ※グループの他の児童は動きをみて，できばえについて助言する							
5分	振り返り 友達との学び合いや運動について振り返り，次時につなげる							GTの演技をみる

- ・ 技の達成とポイントの習得を評価
- ・ 技の達成4点
- ・ 3つのポイントの習得2点
- ・ 技の達成 【4点】
+
ポイントの習得 【2点】 × 3 (ポイント) = 10点満点

1. 運動能力調査



① マットをけり、
腰を高くする

② 体を開いたまま
順次接触して回転

③ ひざを伸ばしたまま
振り下ろして開く
手をまたの近くに置いて
開脚立ち

質的データの検討

すべての群の毎検証授業後に質問紙調査を実施

○授業で友達に伝えたことを自由記述 ○記述した児童による誤字・脱字の修正

1. 全記述内容をデータ化（Microsoft Excelを使用：866文）

2. 筆者・学級担任教諭2名の計3名によるコーディング

3. 各記述をカテゴリ化（3名の教諭による合議による）

励まし・称賛

- 技の達成・未達成やポイントの可否を含むできばえの評価
- 次の運動に向けての心的な励まし

技術的な内容を含まない助言

アドバイス

- 運動局面や体の部位・動きについての言葉かけ
- 運動した児童が自己の動きの課題に気付いたり、次の動きの工夫に見通しをもったりすることができる内容

技術的な内容を含む助言

自尊感情

すべての自分の要素を包括した意味での「自分」を他者とのかかわり合いを通して、かけがえのない存在・価値ある存在としてとらえる気持ち

1. 自己評価・自己受容

長所や短所も含めて、自分をかけがえのない存在と思えること

2. 関係の中での自己

他者の力になろうとしたり周囲に感謝したりすること

3. 自己主張・自己決定

自分を表現したり、自分で決められたりすること

自尊感情測定尺度

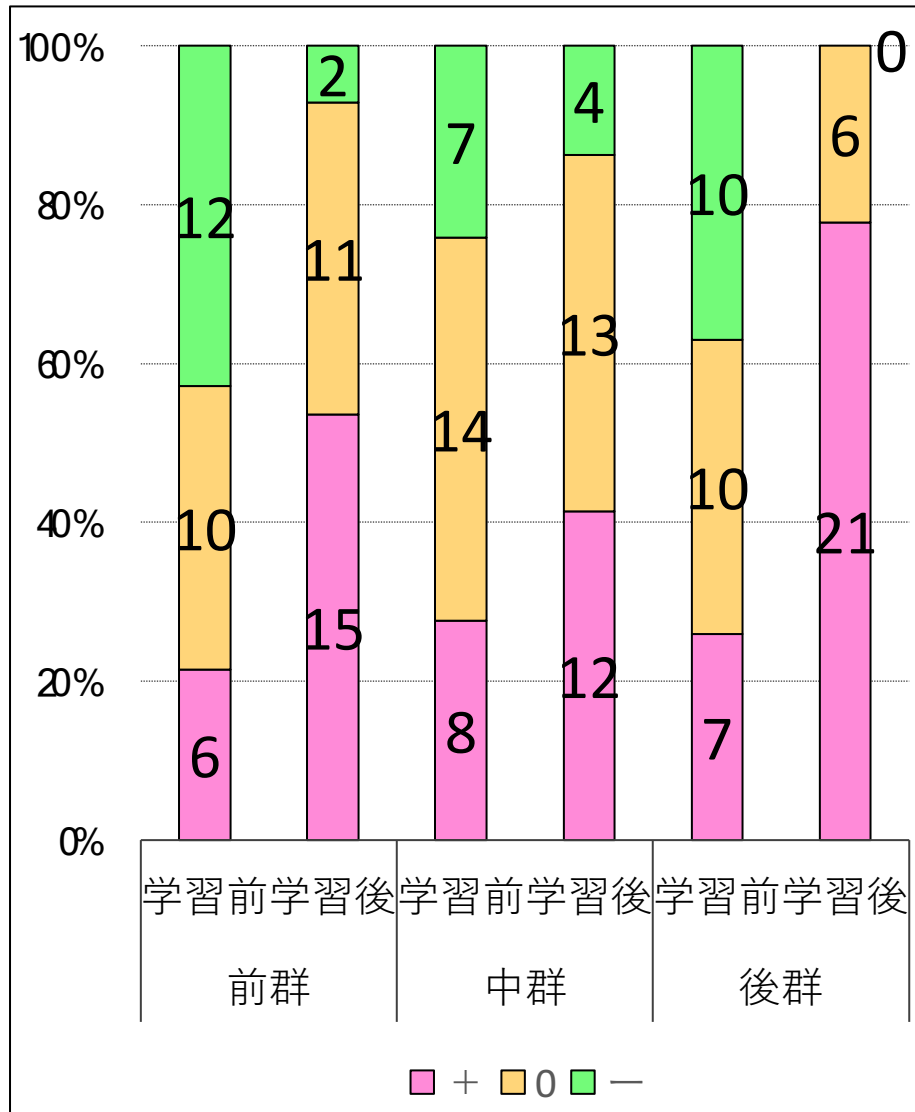
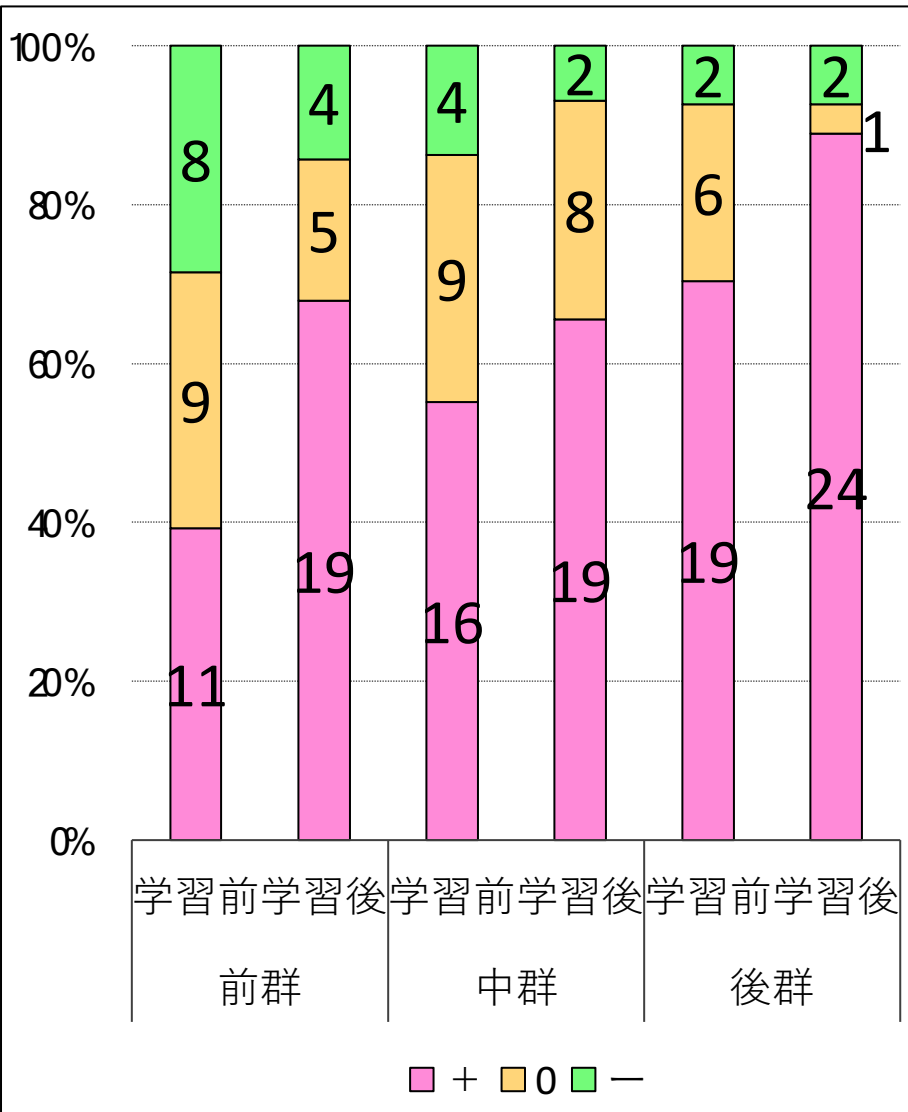
- 22の質問項目に対して4件法(あてはまる / どちらかといえばあてはまる / どちらかといえばあてはまらない / あてはまらない)で回答
- 回答結果を3次元で集計・得点化→ 学習前後で対応ありの t 検定による差の分析

結果

1. 診断的・総括的授業評価（前群:n=28, 中群:n=29, 後群:n=27）

楽しむ次元

まなぶ次元

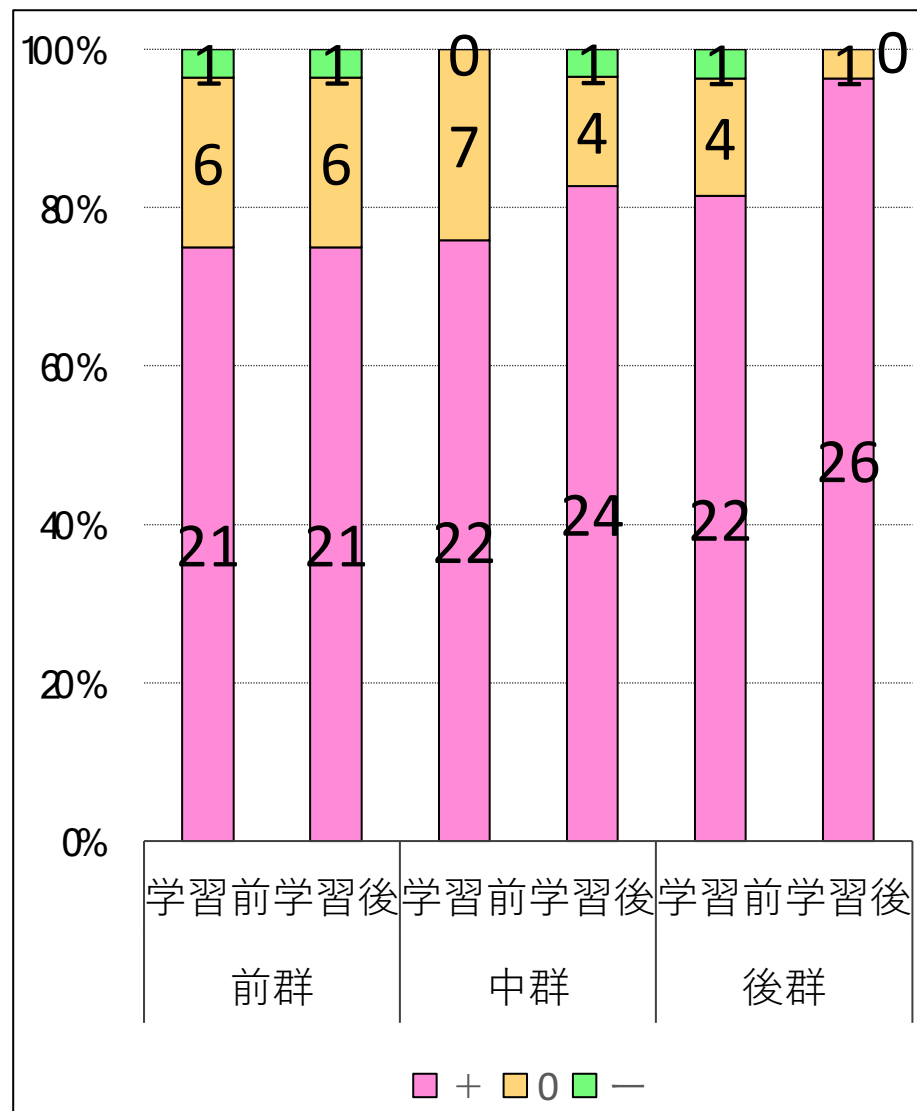
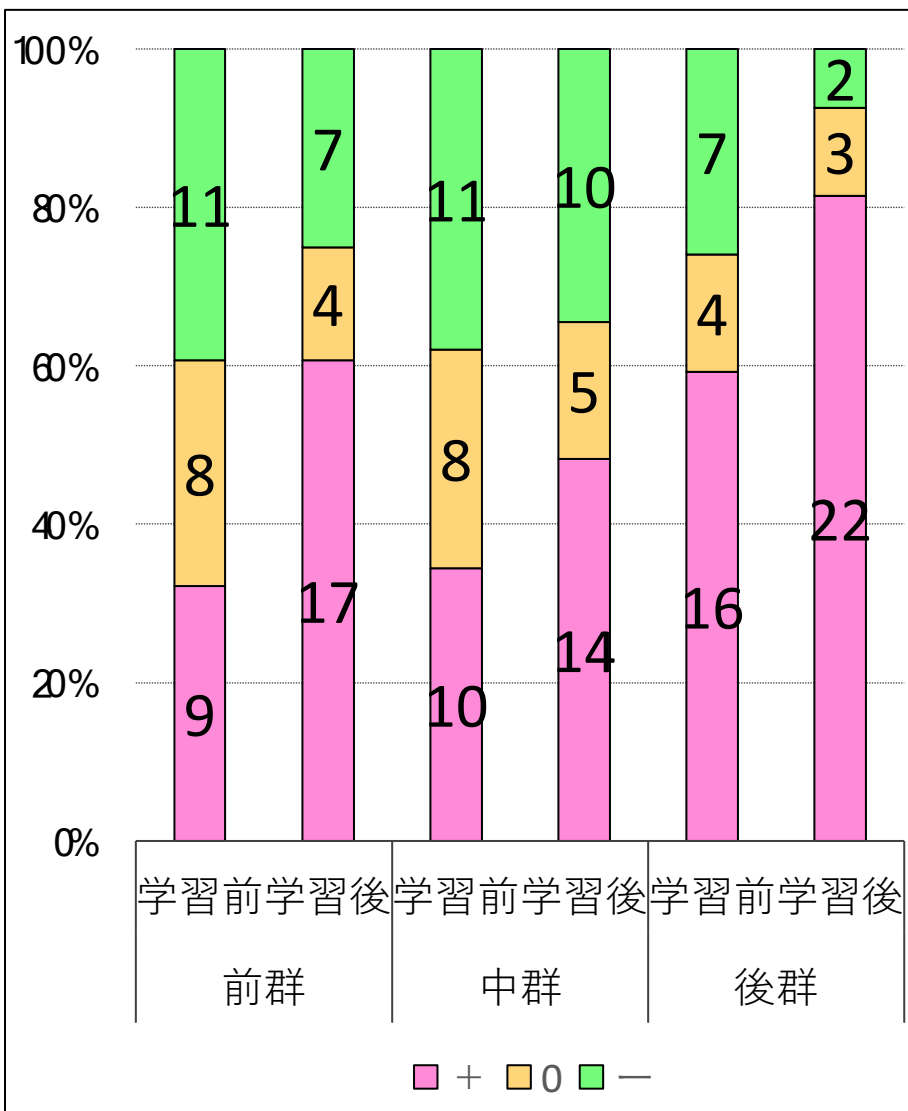


結果

1. 診断的・総括的授業評価（前群:n=28, 中群:n=29, 後群:n=27）

できる次元

まもる次元



結果

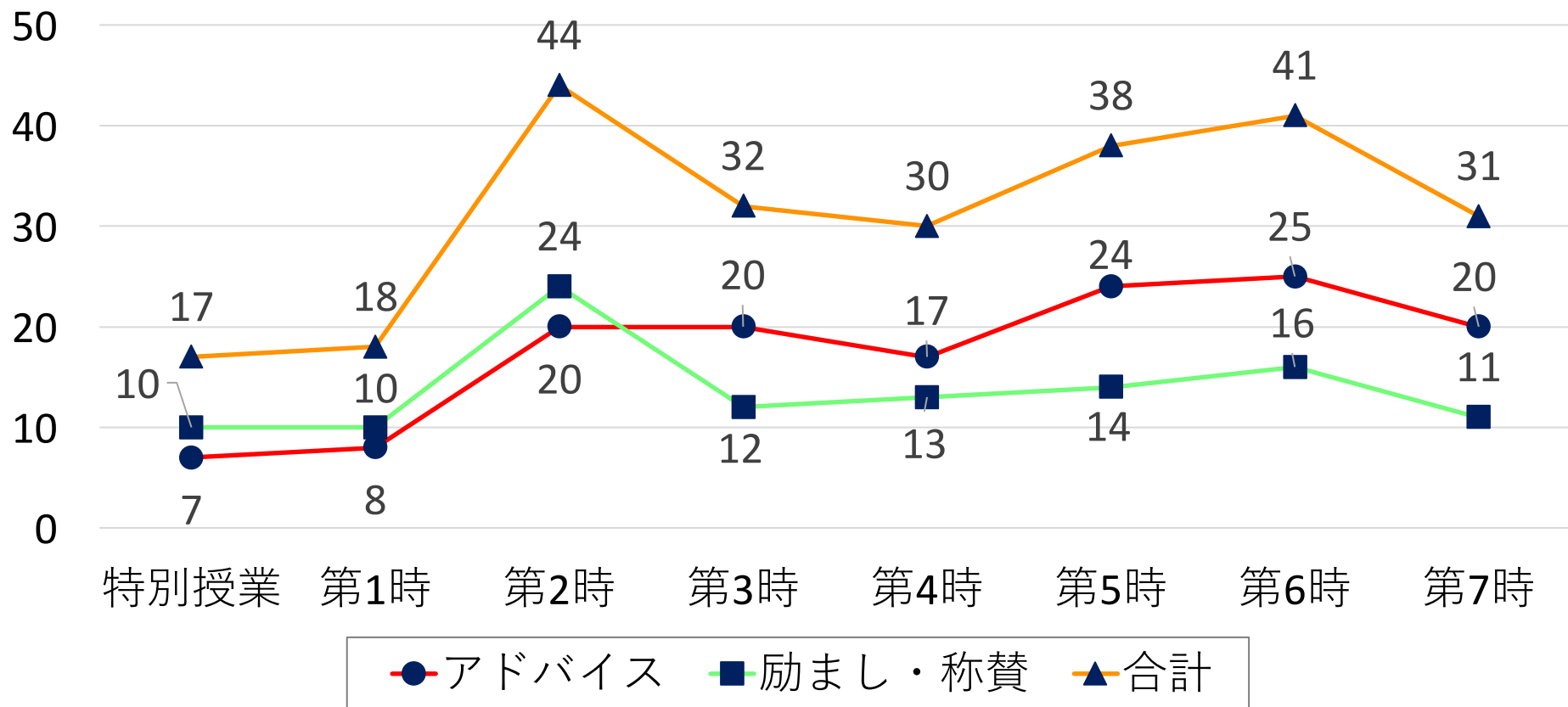
2. 運動能力調査 (前群:n=28, 中群:n=29, 後群:n=27)

開脚前転

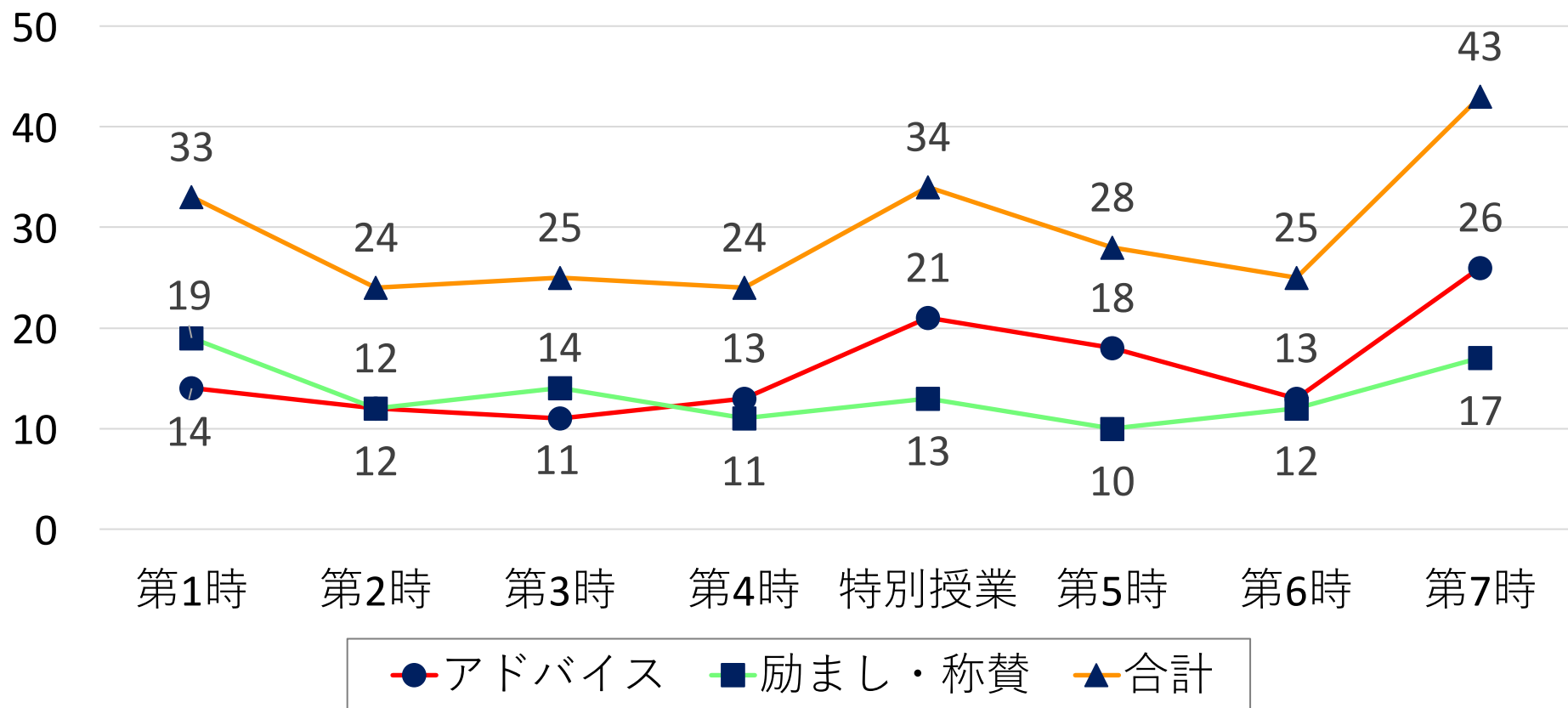
群	前群				中群				後群			
ポイント	①	②	③	合計	①	②	③	合計	①	②	③	合計
学習前 (M±S.D)	1.14 (1.01)	0.93 (1.02)	0.21 (0.63)	0.86 (2.58)	1.34 (0.94)	0.69 (0.97)	0.20 (0.62)	0.83 (2.54)	0.96 (1.02)	0.81 (1.00)	0.07 (0.38)	0.22 (1.15)
学習後 (M±S.D)	1.86 (0.52)	1.14 (1.01)	0.64 (0.95)	3.14 (4.66)	1.51 (0.87)	1.51 (0.87)	0.97 (1.02)	4.69 (4.96)	1.56 (0.81)	1.04 (1.02)	1.26 (0.98)	5.62 (4.54)
t 値 (df)	** -3.87 (27)	n.s -1.36 (27)	* -2.71 (27)	** -3.00 (27)	n.s -0.63 (28)	** -3.04 (28)	** -3.64 (28)	** -3.95 (28)	** -2.84 (26)	n.s -1.00 (26)	** -6.15 (26)	** -6.29 (26)

* : $p < .05$, ** : $p < .01$

	平均
アドバイス	17.63
励まし・称賛	13.75
合計	31.38

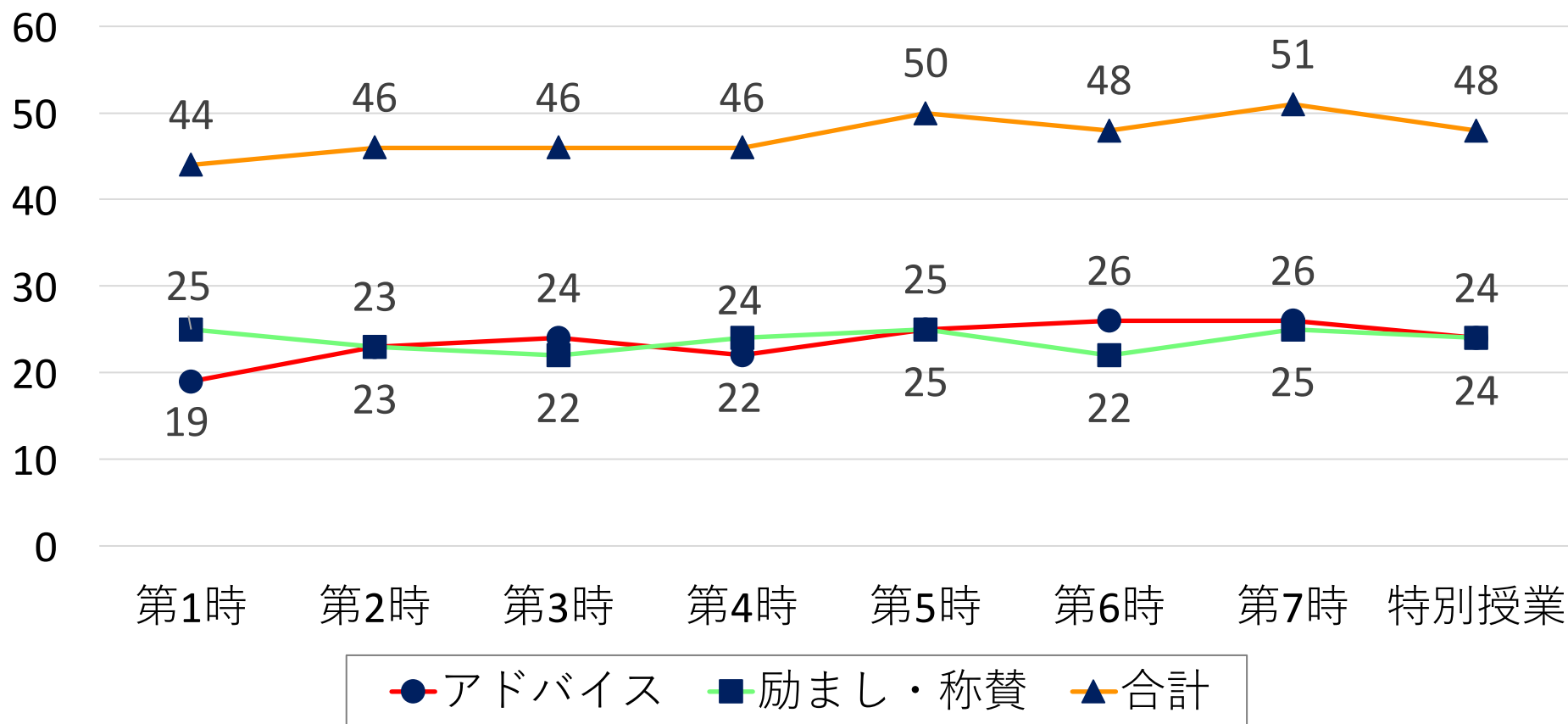


	平均
アドバイス	16.00
励まし・称賛	13.50
合計	29.50

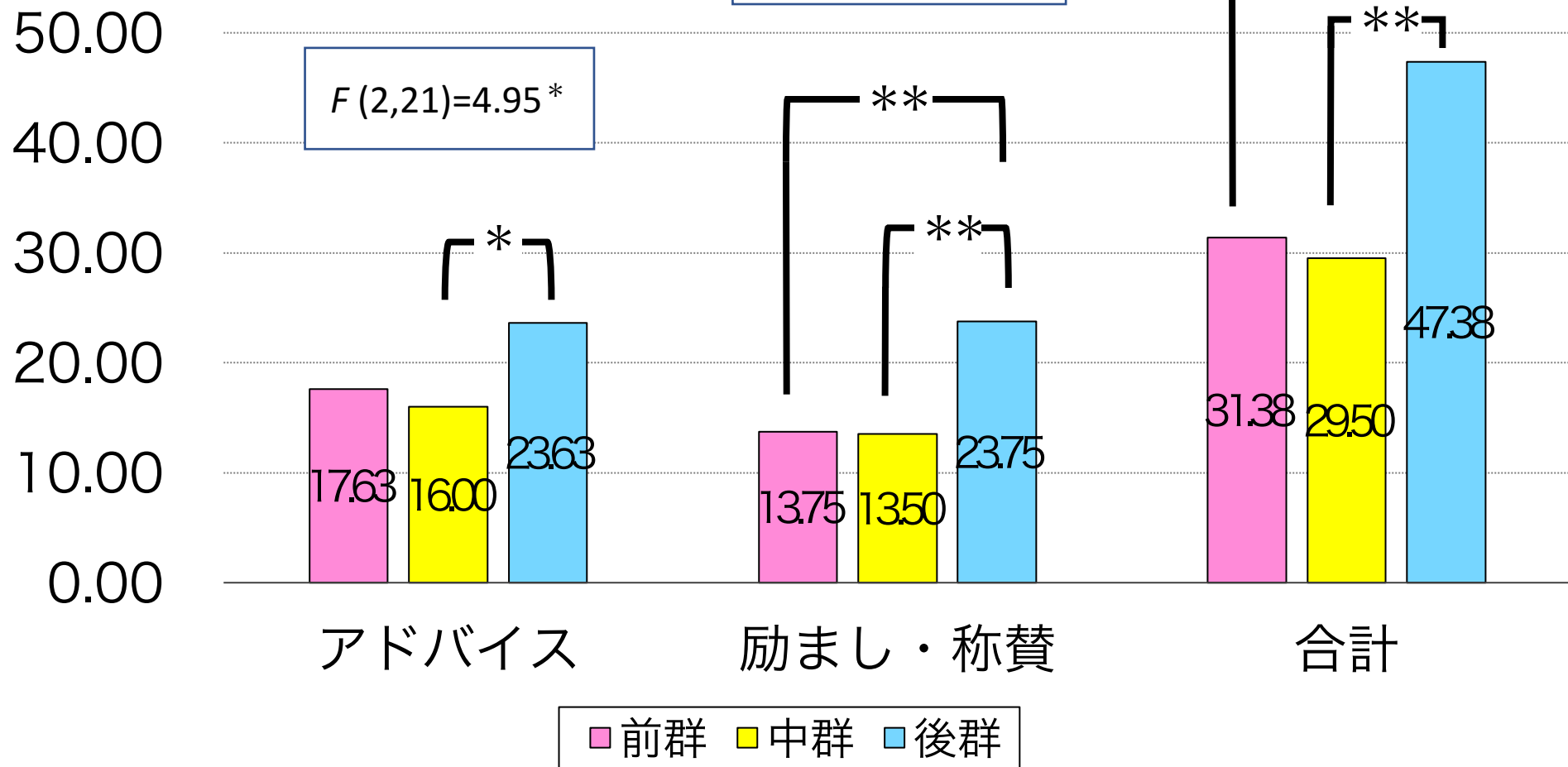


3. 声かけ人数・内容調査 (後群：n=27)

	平均
アドバイス	23.63
励まし・称賛	23.75
合計	47.38



3. 声かけ人数・内容調査 (n=24 ; 前群:n=8, 中群:n=8, 後群:n=8)



* : $p < .05$, ** : $p < .01$

結果

4. 自尊感情測定尺度 (前群:n=28, 中群:n=29, 後群:n=27)

評価項目		前群 M(±S.D)	t 値 (df)	中群 M(±S.D)	t 値 (df)	後群 M(±S.D)	t 値 (df)
自己評価・ 自己受容	前	2.56(0.72)	-1.30 ^{n.s} (27)	2.82(0.56)	-1.70 ^{n.s} (28)	2.71(0.68)	-1.89 ^{n.s} (26)
	後	2.72(0.91)		3.02(0.63)		2.95(0.50)	
関係の中 での自己	前	2.90(0.65)	-2.36 [*] (27)	3.14(0.52)	0.11 ^{n.s} (28)	2.96(0.60)	-2.06 [*] (26)
	後	3.14(0.53)		3.13(0.58)		3.16(0.44)	
自己主張・ 自己決定	前	2.83(0.68)	-0.91 ^{n.s} (27)	3.02(0.52)	-0.04 ^{n.s} (28)	2.82(0.64)	-0.82 ^{n.s} (26)
	後	2.93(0.74)		3.02(0.61)		2.91(0.52)	

* : $p < .05$

まとめ

○単元内の位置付けにかかわらず、トップアスリートによる特別授業を含む学習により、児童の体育学習に対する意識と運動技能は高まった。

○後群は、中群よりも有意に多くの児童が動きの修正のための具体的なアドバイスをした。

○後群は、前群や中群よりも有意に多くの児童が友達に声かけをしていた。

○中群は、特別授業に向けて課題の技を達成するための焦りが生じ、自己の動きを高めることのみ意識が向いてしまい、友達との動きのみ合いや声かけに対する志向性が減少した。

○学習後の前群と後群の自尊感情得点は微増し、「関係の中の自己」においては有意な高まりが見られた。

○学習後の中群の「関係の中の自己」得点には減少が見られ、「自己主張・自己決定」には変容が見られなかった。互いに動きをみ合ったり、友達に動きを修正するためのアドバイスや励ましの声かけをしたりする機会が少なかったために、自尊感情が高まらなかった。

結論

【単元はじめの特別授業】

特別授業で学習した動きや学び方をその後の単元学習に活用

【単元終盤での特別授業】

特別授業までに動きを高めることや学び方を習得することへの意識の高揚



友達との動きのみ合い・アドバイスの充実



自尊感情の高まり



【単元中盤での特別授業】

特別授業までの学習で動きを高める必要性・焦り



友達との動きのみ合い・
アドバイスへの志向性の減少

学び方を身に付けた上で、単元学習後に特別授業を実施することが児童の自尊感情を高める上で効果的である可能性

参考・引用文献

- 伊藤美奈子・岩本純子(2010)学校現場で求められる自尊感情を測る尺度作成の試み. 日本教育心理学会第52回総会発表論文集, p.639.
- 伊藤美奈子(2015)学校現場では自己肯定感をどのようにとらえればいいか. キャリアガイダンス, Vol409,pp.9-11.
- K.マイネル:金子明友 訳(2007)スポーツ運動学. 大修館書店.
- 金子明友(1998)教師のための器械運動指導法シリーズ:マット運動. 大修館書店.
- 真田久(2015)オリンピック・ムーブメントとオリンピック. スポーツ教育学研究Vol.34(2), pp.29-33.
- 三木四郎(2008)新しい体育授業の運動学. 明和出版, pp.118-119.
- 文部科学省(2017)次期学習指導要領改訂に向けた審議のまとめ, p.242.
- 文部科学省(2018)小学校学習指導要領解説体育編, pp.3,6,13,15,21-23,164,166.
- 佐藤貴史(2012)小学校高学年における自尊感情を高めるための指導に関する研究:コミュニケーションスキルプログラムの実践を通して. 青森県総合学校教育センター研究紀要.
- 鈴木健一(2018)器械運動を基軸としたオリンピック・パラリンピック教育の効果. 体操競技器械運動研究第26巻, pp.101-102.
- 鈴木健一・水島宏一(2018)オリンピック・パラリンピック教育の効果の検討-トップアスリートによる特別授業の位置付けに着目して-. スポーツ教育学研究第38回大会号, p.29.
- 高橋健夫編著(2009)体育授業を観察評価する, pp.8-11. 明和出版.
- 東京都教育委員会(2017a)オリンピック・パラリンピック教育実践事例集.
- 東京都教育委員会(2017b)平成28年度オリンピック・パラリンピック教育重点校(園)実践報告資料. <https://www.o.p.edu.metro.tokyo.jp/effort-example>.
- 東京都教職員研修センター(2011)子供の自尊感情や自己肯定感を高める指導資料【基礎編】.
- 東京都教職員研修センター(2012)自尊感情や自己肯定感に関する研究(第3次). 東京都教職員研修センター研究紀要第10号.

ご清聴，ありがとうございました。

この研究は，笹川スポーツ財団の「笹川スポーツ研究助成」の助成金を受けて実施しています。



笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION